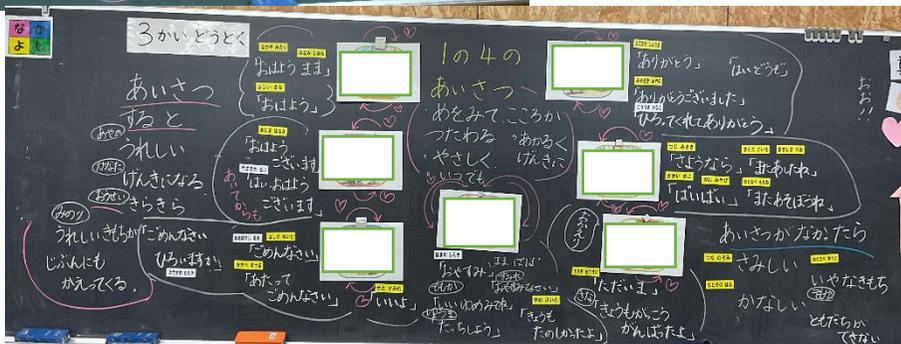
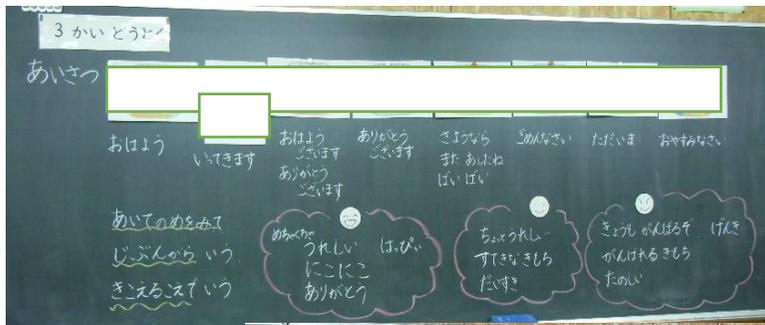


道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

1年生は道徳の授業で、「礼儀」について考えました。



8つの場面の絵を見ながら、自分たちの日常生活をふり返り、挨拶をする人の気持ち、された人の気持ちを考えました。

さらに、素敵な挨拶に大切なことは何かを考え、挨拶するよさに気付くことができました。

☆児童の意見や考えより☆

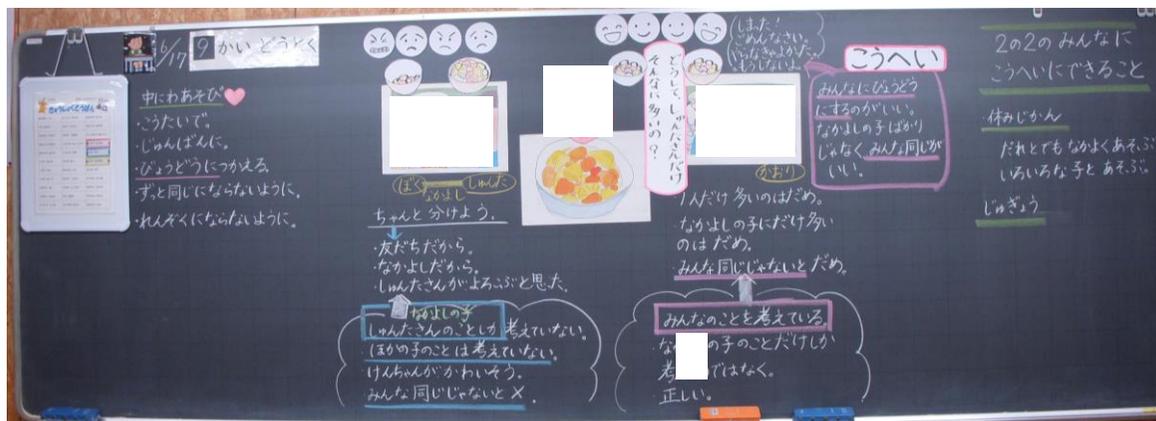
- あいさつをされると、にこにこになります。
- あいさつをすると、げんきになります。
- あいさつは、するとうれしいきもちがじぶんにもかえってきます。
- あいさつがなかったら、さみしいし、いやなきもちになります。
- あいてのめをみて、あいさつをしたほうがよいです。
- もっとあいさつをがんばりたいです。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

2年生では、道徳の授業で公正・公平について考えました

「大すきなフルーツポンチ」



みんなが気持ちよく
過ごすために、自分は
公平に何ができるかな

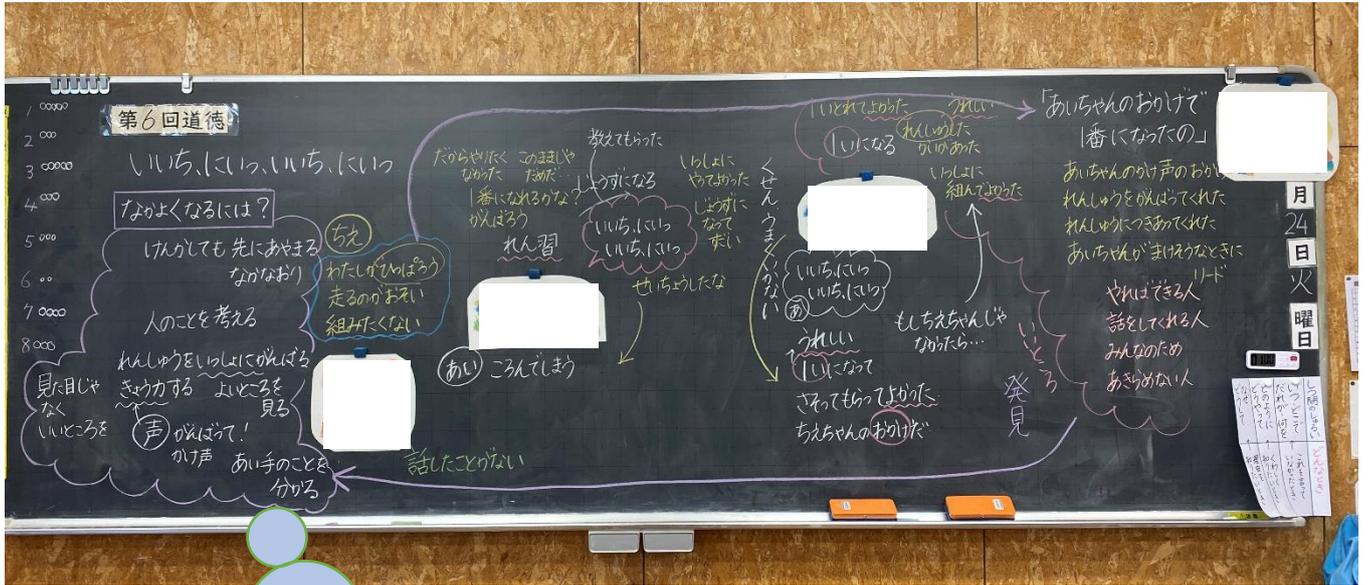
〈児童の発言や感想〉

- ぼくが給食当番の時、友達の好きなご飯が出て、入れすぎないように気をつけます。かおりさんが注意をしてくれてよかったです。
- 給食当番の時、みんなに平等に分けたいと思います。
- ちゃんと公平なことをすると、いいことがあるんだなと思いました。
- みんなに公平にしたいです。友達への注意や、授業の発表など、いろいろなことで公平や平等をがんばって、そんなクラスにしたいです。

主人公の「ぼく」は、給食当番でフルーツポンチを分けることになりました。「ぼく」は、クラスみんながフルーツポンチを好きなことを知っていたながら、つい不公平に分けてしまいます。そして、その様子を見た給食当番の友達に指摘されてしまう、というお話です。

授業では、公平に行動することで、みんなが気持ちよく過ごせるということに気付きました。そして、クラスのみんなに、どのようなことを公平にできるかについて、話し合いました。

♡ 人と いいち、にいい、いいち、にいい



なかよくなる
には...



あまりよく知らなかった人とも
なかよくなるには、どうしたらよ
いか考えました。自分に合う方法
を見つけて、どんどん友だちがで
きるといいですね。

- 友だち作りが上手じゃないから思い付かなかったけど、この時
間で、友だちづくりはむずかしくなくて、方ほうはいろいろあ
ることが分かりました。これからは、かんたんそうな「いっし
よにがんばる」をしていきたいです。(T)
- いっしよに何かをするとなかよくなかった人ともなかよくな
れると思います。だから、ぜんぜん知らない人ともなかよくし
たいです。(Y)
- やさしさは何回もしていると苦手な友だちともなかよくなれ
ることが分かって、やさしさはまほうみたいだなどと思いまし
た。(S)
- すきじゃない子や話したことがない子といっしよに何かをや
って、時間があつたら、「いっしよに遊ぼう」とさそってなか
よくなりたいたいです。(Y)
- さいしよはなかよくなかったけど、いっしよに遊んだり話した
りしているうちに、なかよくなった子がいます。(S)
- きょうりよくすることは、大事だなと思いました。(S)
- いっしよにお絵かきをしているうちに、あいちゃんと友だちに
なりました。(Y)

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

4年生は、道徳の授業で「生命の尊さ」について考えました。

「わたしの見つけた

小さな幸せ」

急性腎盂炎になり一ヶ月学校を休んだ主人公は、その怖さや苦しさを知り、初めて健康のありがたさが分かります。病気が回復したとき、日頃は当たり前と思っていた食事や道端の小さな花に感動し、改めて生きていることの幸せを見いだしていく、というお話です。

このお話を通して、生命の大切さや生きている喜びについて話し合いました。



〈振り返り〉

●今日の学習で分かったことは、命が一番大事なことです。命がないと何もできないし、幸せを感じることもできないからです。これからも命を何よりも大事にしたいと思います。

●今日の勉強で思ったことは、毎日幸せなんだなということです。友達や家族と話せることは幸せだし、ご飯を食べられること、命があることも幸せだと思いました。

●命の大切さを学びました。私の小さな幸せは、みんなといっしょに勉強できるといことです。みんなといっしょに勉強すると、一人で分らなかったことがたくさん分かります。これからは、今まで見つからなかった小さな幸せをたくさん見つけたいです。

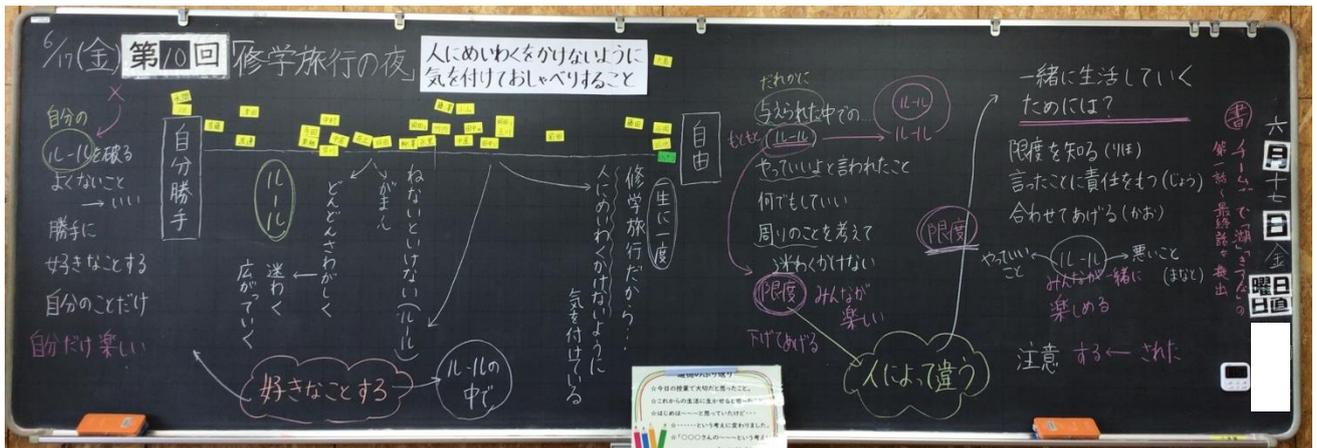
命の大切さ



道徳便り No.1

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

6年生は道徳の時間で、「自由」について考えました。ある行動を「自由」と感じるか、「自分勝手」と感じるかは、人によって異なるということに気がきました。自分に自由があるように、相手にも自由があるため、自他の自由を大切にするにはどうしたらよいかを考えました。



修学旅行の夜、「消灯後、人に迷惑をかけないよに気をつけて、自由におしゃべりしよう。」と決めたが、話し声や行動がどんどんエスカレートしていきます。隣の部屋の子から苦情を受け、先生からは「自由と自分勝手のちがいを考えなさい。」と言われ、自分たちの行動を振り返るお話です。

授業では、まず「消灯後、人に迷惑をかけないよに気をつけて、自由におしゃべりしよう。」というのは、「自由」か「自分勝手」かを考えました。自由と考える子もいれば、自分勝手と考える子もいて、その捉え方が人それぞれ違うことに気がきました。また、自分にとっては自由な行動かもしれないが、相手にとっては自分勝手と感じる行動があることにも気がきました。

- みんな自由と感じる限度が違う中で、自分がやりたいことばかりしていると、相手の自由を無くしてしまっていると思った。
- 妹と遊ぶとき、自分のしたいことばかりしていました。妹は楽しそうにしているけれど、もしかすると嫌だなと思いつつ遊んでいると考えると、自分勝手な行動だと気がきました。
- 自由の捉え方が人によって違うということはなんとなく分かっていましたが、その人たちが一緒に生活していくにはどうしたらよいかというのは考えたことがなかった。
- 自分が自分勝手だと感じたことを相手に伝えたとき、それを否定されたら、その人がどんな考えでその行動をしているのかを聞いたり、考えたりしていくことが必要だと考えました。
- 自分の言ったことや行動したことに責任をもつことが自由な行動だと思った。